

きのくに医療連携システム

# 青洲リンク



和歌山県立医科大学  
入江 真行

# 被災地医療支援での問題点(医療情報の面から)

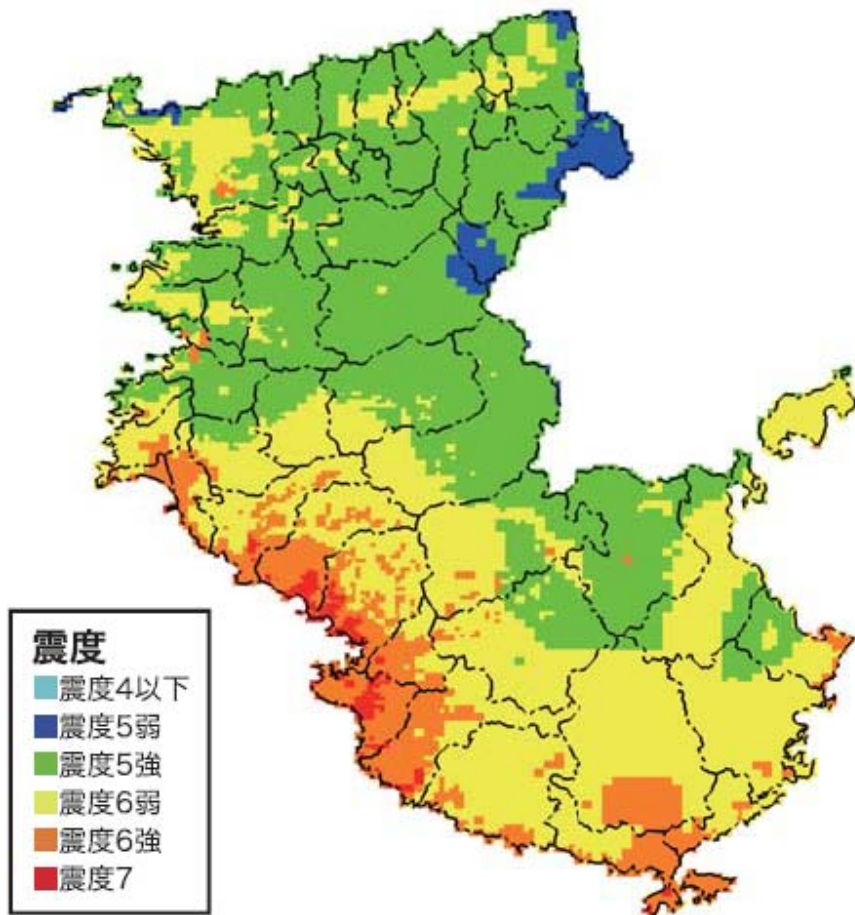
- 患者の背景が分からない
  - － 医療機関が被災し診療記録が消失
    - 病名
    - 普段飲んでいる薬
    - アレルギー etc.
- 引き継ぎが困難
  - － 診療記録をどう引き継ぐのか
    - チーム(病院)毎にばらばらなカルテ
    - 法的な問題も

# 和歌山県のおかれた状況

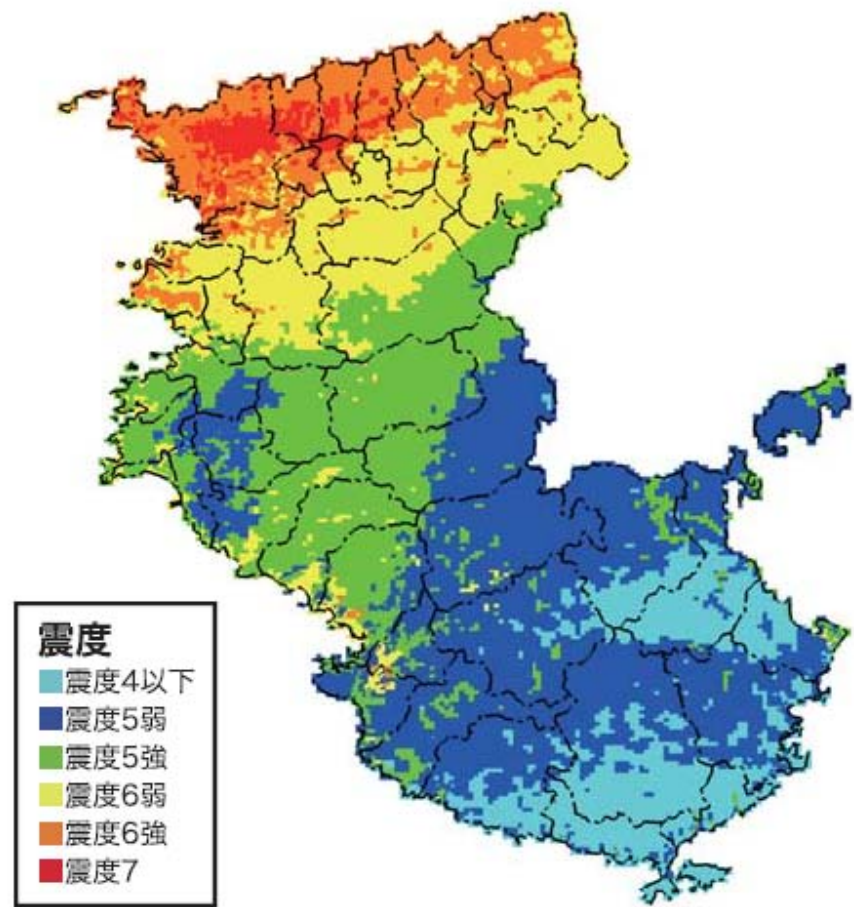


# 想定地震による震度予測図

## 東海・東南海・南海地震

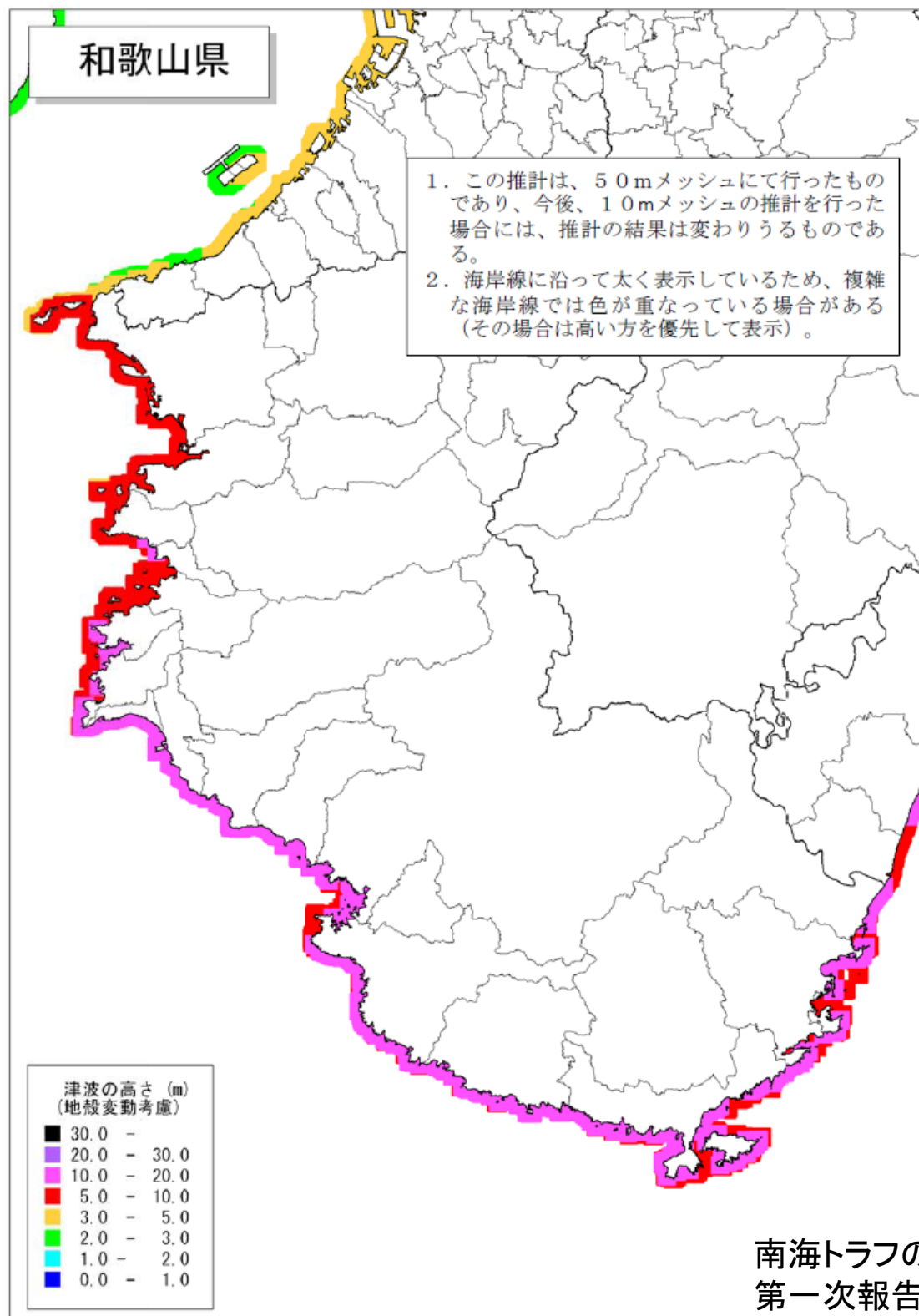


## 中央構造線による地震



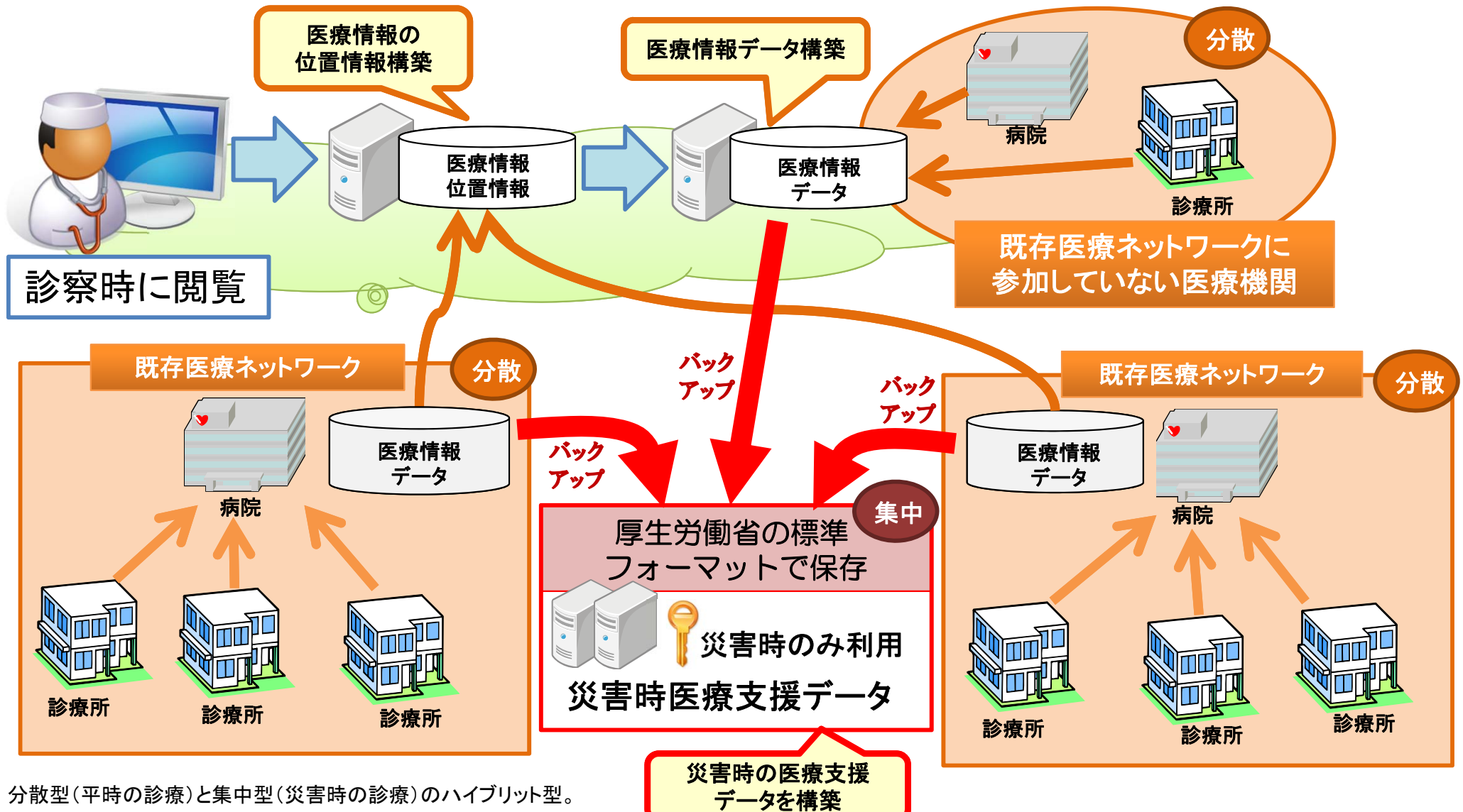
「かけがえのないいのちを守るために」(和歌山県)より

最大クラスの津波高  
(11ケースの最大値)  
〈満潮位〉



# 和歌山県の医療情報連携基盤構想

- 切れ目のない医療連携体制を確立させ、地域医療の質の向上をおこなう。
- 医療情報のデータを蓄積することで医療情報が保全され、災害時でも適切な医療サービスが提供可能となる。



分散型(平時の診療)と集中型(災害時の診療)のハイブリット型。

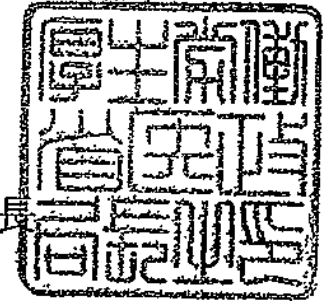
医療情報連携・保全基盤推進事業



医政発0405第38号  
平成24年4月5日

都道府県知事 殿

厚生労働省医政局長



### 医療情報連携・保全基盤推進事業実施要綱について

医療情報連携・保全基盤推進事業については、別添「医療情報連携・保全基盤推進事業実施要綱」により行うこととしたので通知する。

なお、この通知は平成24年4月1日から適用し、平成22年3月25日医政発0325第9号「地域診療情報連携推進事業の実施について」は廃止する。

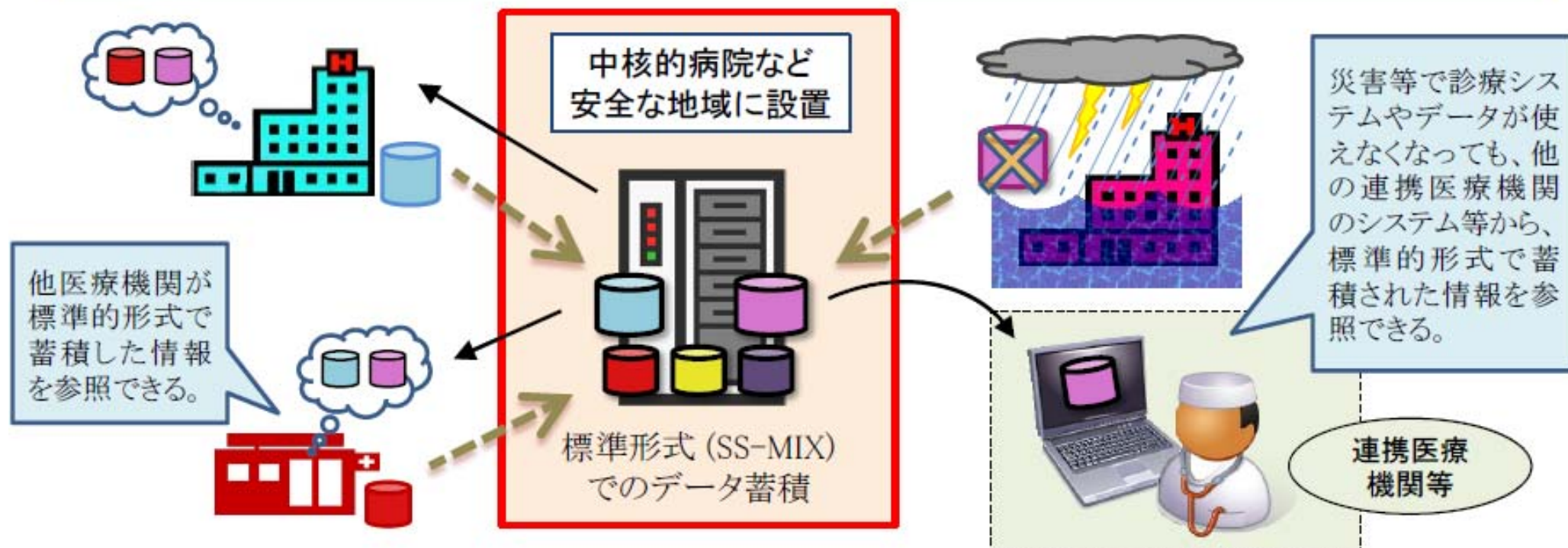
おって、平成23年度以前に交付された国庫補助金に対する事業の取り扱いについては、従前の例によるものとする。

なお、貴管内市町村及び医療機関等に対する周知につき配慮願いたい。

# 医療情報連携・保全基盤推進事業

- ・ 医療機関が診療データを標準的な形式で外部保存することにより、連携する医療機関がデータを相互閲覧できる。
- ・ 標準的形式で保存されるデータはバックアップとしても利用可能で、これを安全な地域(中核的病院など)に設置することにより、災害時などの非常時にも対応が可能。

※地域医療連携数 病院：約 5病院  
診療所：約 30施設 } 20地域



# 期待される効果

- 各医療機関が診療データを標準的形式でデータサーバに蓄積することで、紹介元の医療機関で蓄積された過去の診療情報を、紹介先の医師が患者同意の下に参照できるようになり、より**適切で無駄のない医療提供**が行える。
- データ蓄積サーバーに診療データの蓄積を行うことで、バックアップとしての機能も兼ねることができ、**災害や設備・システムの不具合などの際にも速やかに診療データの参照が可能**となる。



きのくに医療連携システム

青洲リンク

# 青洲リンクの機能

## 1. 基盤機能

- SS-MIX による電子カルテデータの外部バックアップ
- PIX/PDQ による患者IDひも付け
- 電子カルテデータのフルバックアップ\*
- きのくに e-ネットの活用

## 2. 平時医療情報連携機能

- 同意済み患者の診療情報相互参照
- オンライン診療・検査予約\*
- 診療情報提供書作成\*

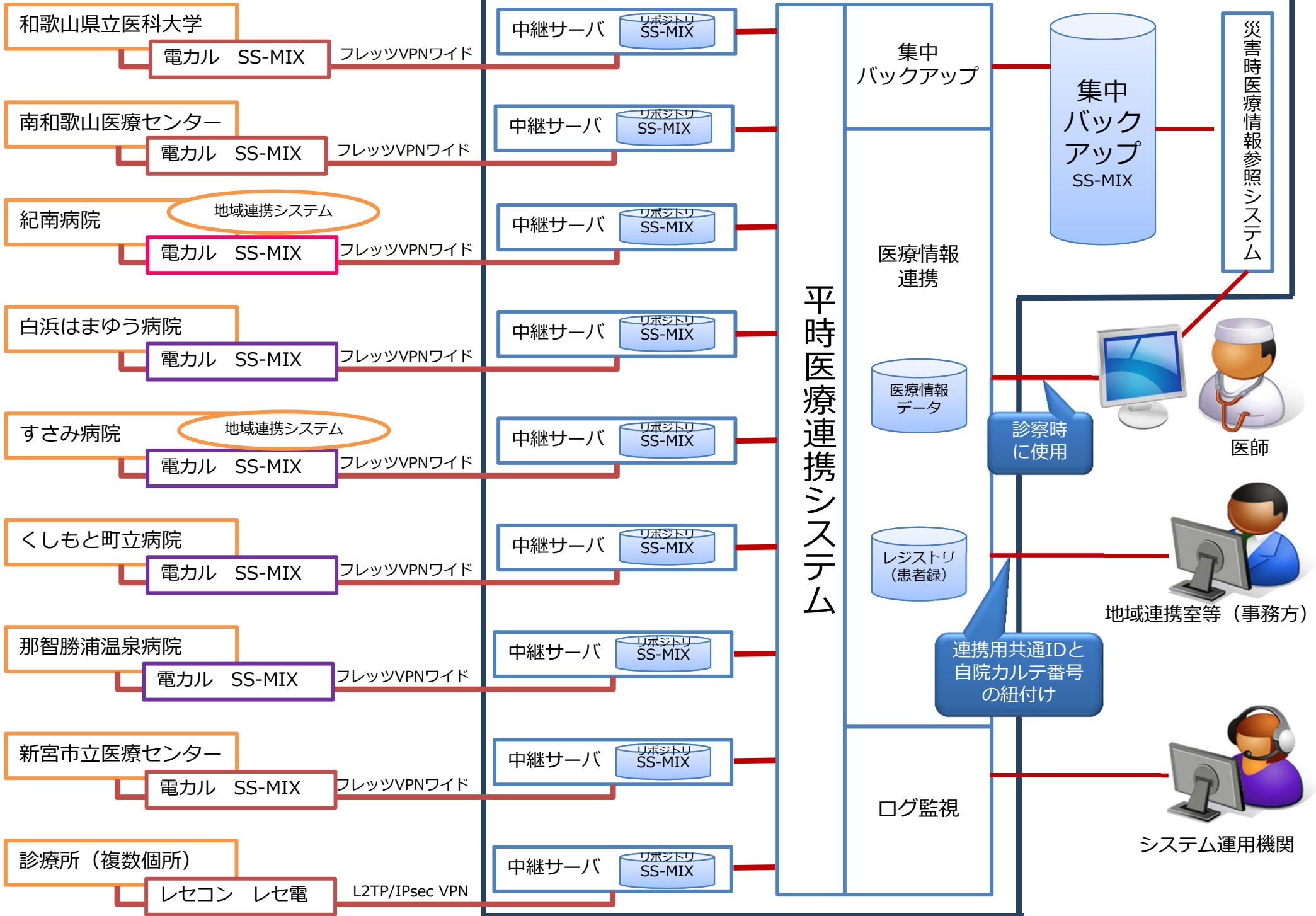
## 3. 災害時医療情報連携機能

- Web版システム
- ポータブル版システム

\* : option

# 機能概要

## 参加病院



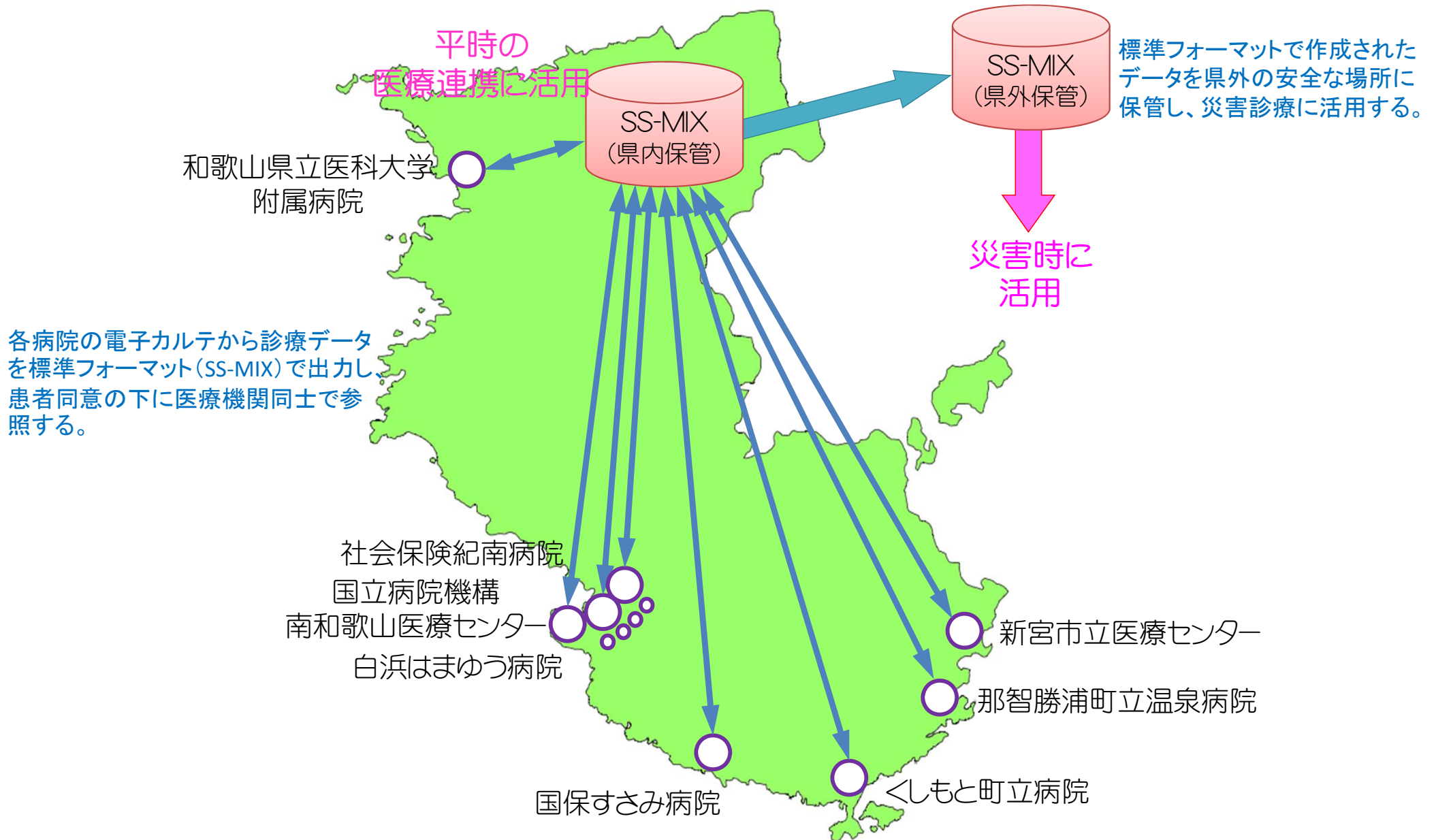
# 医療情報 共有・保全項目

分類		共有 保全項目名
患者基本情報	患者識別	患者氏名
		生年月日(年齢)
		性別
		患者住所
		電話番号
	患者来院情報	外来・入院区分
患者基本情報	検査結果	血液型
	アレルギー情報	アレゲン情報(薬剤・食物等)
	患者病名	傷病名(開始日・転帰)
	投薬	処方オーダー
注射	注射オーダー	注射手技名・薬剤名・数量・単位・回数・実施日
検体検査	検体検査オーダー	検査項目名・検査値・単位・検査日
診療情報提供書	文書	診療情報提供書
退院サマリ	文書	退院サマリ
SOAP	主訴・所見等	SOAP



きのくに医療連携システム

# 青洲リンク



和歌山県立医科大学が実施主体となり、地震被害・津波被害が想定される紀南地方より進める。

\* 4月1日現在、8病院4診療所  
サービスエリア、参加医療機関は順次拡大する予定



# 実施体制



# 災害時の処理概要

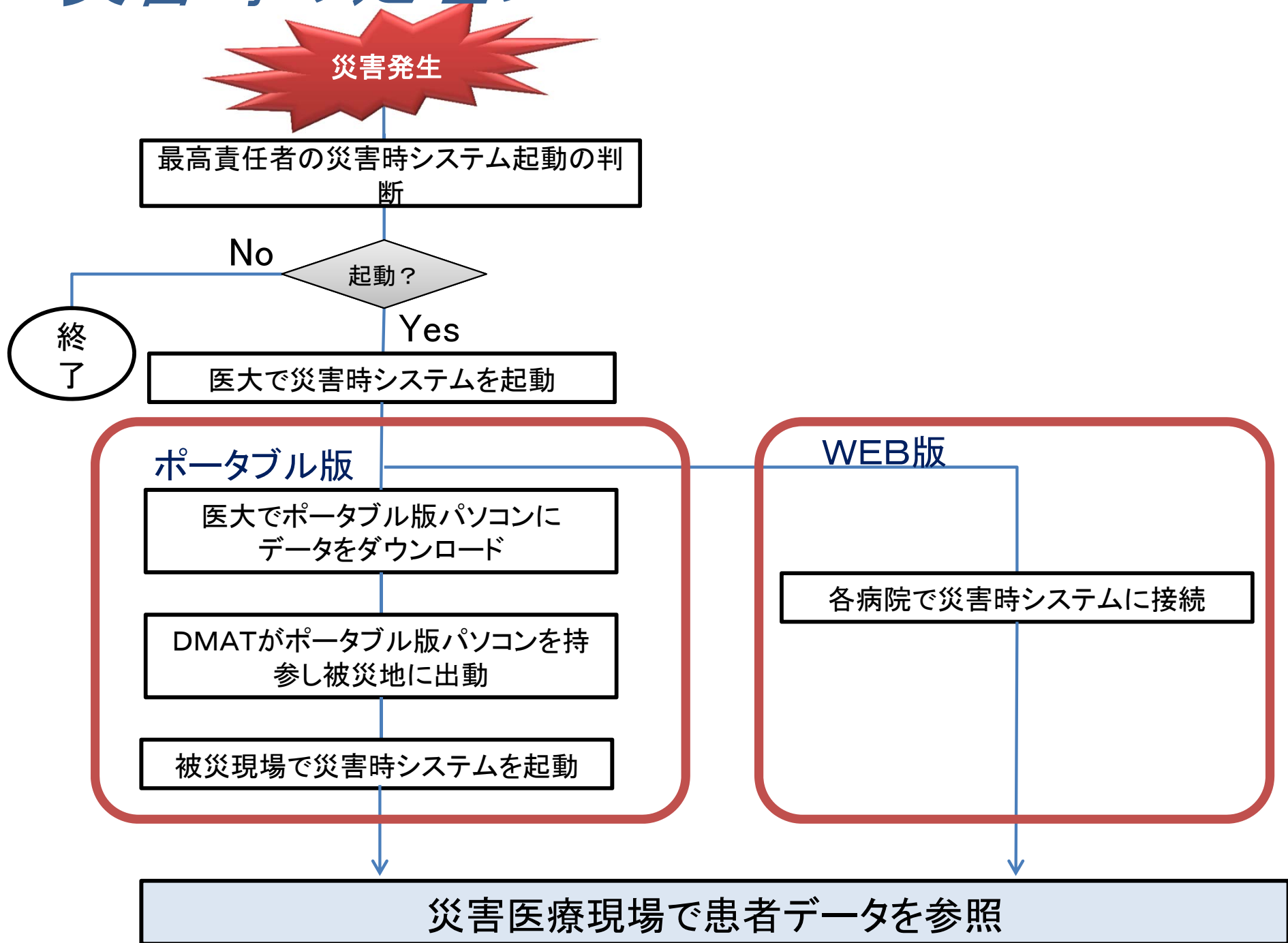
## 災害時のシステム

- **WEB版**（インターネットに接続してデータ参照する）
- **ポータブル版**（データをノートPCにダウンロードし、現地でオフラインでデータを参照する）

### ※WEB版とポータブル版の比較表

種類	接続	データ	使用するパソコン	データの範囲	主な利用者
WEB版	インターネット	県外のデータセンターにアクセス	災害時用の証明書が入ったインターネットに繋がっているパソコン。 (青洲リンクで普段使用しているパソコンに災害時用の証明書を入れることも可能。)	参加医療機関の全患者データ	青洲リンクに参加の災害拠点病院・災害支援病院
ポータブル版	ネット接続なし	県外のデータセンターからノートパソコンにデータダウンロード	災害時用証明書を入れたノートパソコン。2台準備。	ダウンロード時に絞り込んだ地域の患者データ (地域指定は病院の住所)	災害医療派遣チーム

# 災害時の処理フロー



# 本格運用までの課題

- 患者同意取得手続きの確定
  - － 文書、インフォームドコンセント手順 等
  - － 参加医療機関内の体制確立
- 運営協議会の設置
- Webサイト構築
  - － 住民、医療機関向け広報
  - － 参加施設間の情報共有

# 運用開始後の構想

- 平時の医療連携機能の強化
  - 電子カルテ情報
  - 画像
  - サマリ etc.
- 紀北、紀中エリアへの広域化
- 調剤薬局、訪問看護St. 等への接続
- 運営組織の独立